

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 2月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	0770301786		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	健康倶楽部郡山 グループホーム「オークヒルズ」		
所在地	〒963-8051 福島県郡山市富久山町八山田字南広谷20-4 (電話) 024-935-2573		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成21年1月19日	評価確定日	平成21年3月2日

【情報提供票より】(平成 20年 11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 14.1 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷 金	有 (円) ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有 ○ 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護 1	4 名	要介護 2	7 名		
要介護 3	2 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	73 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	財団法人 脳神経疾患研究所付属総合南東北病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者、家族の思いや希望を重視し日々支援している。利用者の希望をかなえる「希望の月」を一人に年に3回実施している。自宅でお線香をあげたり、自宅の庭の手入れをしてきたり、また、事業所内で手芸教室を開催し、教室を希望した利用者だけではなく、家族とユニットの利用者全員が参加し、楽しい一時を過ごしている。
さらに、職員は利用者の状態変化や思い等を適切に把握しているため、介護計画は利用者が1~3ヶ月で達成できる具体的短期目標となっている。介護計画の見直しの際は利用者の状態変化に合わせて新しい目標に変更し支援していることは評価できる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の外部評価で取り組みを期待したい項目とされた「運営推進会議を活かした取り組み」と「災害対策」は、いずれも職員間で検討しながら改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を理解し、全職員で一人ずつ自己評価を行い、管理者がユニットごとにまとめた。改善課題等を把握し検討することで質の向上に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)</p> <p>運営推進会議のメンバーは、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族代表等に依頼している。会議では「外部評価の結果」「実地指導」「防災について」「避難訓練等の事業」を報告している。委員から協力的な意見が出され、防災時のボランティアを近所の人をお願いできることになった。2ヶ月に1回定期的に開催し、討議内容が運営に活かされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年に1~2回家族交流会を開催し、家族の意見等を確認するようにしている。さらに、家族面会時に利用者の様子を詳しく伝え、家族の意見等聞きやすい雰囲気作りをしている。出された意見等はすぐに運営に反映させるよう申し送りしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、地域の行事を教えてもらい祭りやカラオケフェスティバル等に利用者と参加している。また、事業所の会報誌を回覧で回してもらい地域からもボランティアや小学生の訪問があり、双方向で交流を深めている。</p>
重点項目④	<p>災害時には事業所の近隣のお宅の協力がもらえるようボランティアの依頼をしている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を反映した3つの柱からなる理念とユニットごとに年度目標を立てて取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常の業務の中で折に触れ、管理者から職員へ理念を掘り下げて伝えたり、職員会議の際に確認したりしている。来訪者にも分かるよう出入り口に掲示し、職員間で理念が共有されている。サービス提供の場において理念を具体化し実践できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、地域の祭りやカラオケフェスティバル等に利用者と共に参加している。地域のボランティア、小学生等の訪問もあり、双方向で地域と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果で取り組みを期待したい項目となった「運営推進会議を活かした取り組み」は、今年から2ヶ月に1回定期的で開催している。また、「災害対策」は、毎月の訓練と地域へ協力依頼し、備蓄もされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的を開催し、事業所からの説明、報告等を基に委員から意見が出されている。出された意見を取り入れ改善をし、運営に活かしている。委員は、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族代表等に依頼している。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、担当職員が、写真を付けた手紙で利用者の様子を報告し、ユニットごとの便りと請求書を同封し送付している。利用者の体調の変化等については、その都度電話で連絡している。職員の異動については、便り等で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時に日頃の利用者の様子を伝え、家族から意見等聞き取るようにしている。聞き取った意見等は、申し送り等で共有し、運営に反映できるような体制となっている。しかし、家族は意見や不満を言い出し難いということを理解した事業所側から意見等を積極的に聞く工夫がされていない。	○	家族の立場を考え、意見の聞き取り方を工夫する必要があると思われる。年に1～2回開催される家族交流会で、職員が席をはずし、家族同士で話し合う時間を取り、代表者から報告をしてもらおう等忌憚ない意見が家族から出されるよう取組んで欲しい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員を採用した場合や職員異動の際は、約1～3ヶ月の指導期間を設け、利用者の思いや状況等を新しい職員も共有できるようにしている。さらに、馴染みの職員が利用者へのダメージを少なくするよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づき、段階に応じてなるべく多くの職員を外部研修に参加させ、職員会議等で研修報告をし、情報を共有している。新しい職員へは働きながらトレーニングしていく機会を十分確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がグループホーム連絡協議会の理事をしており、他事業所の管理者と積極的に情報交換している。他の事業所職員と交流する機会を通してサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。今年度から法人内の同業者交流にも取り組んでおり、交換研修を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節ごとの行事のいわれや、料理の仕方等を利用者から教えてもらい、できることは一緒に行い、共に過ごしている。行事の計画は毎週日曜日のお客様会議で出された意見を取り入れて行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「お客様会議」や日々の支援の中で利用者の思いや意向を把握したり、把握が困難な際は、家族とも相談し検討している。利用者の希望を叶える「希望の月」を実施する中でも、利用者の思いを引き出し実現できるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の身体状況等定期的にアセスメントし、利用者や家族の思い、担当職員の意見を基に毎月のカンファレンスの際職員全員で検討し作成している。出来上がった介護計画を家族に確認しながら、支援している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスでアセスメントに基づく利用者全員の問題、課題を検討し、ケアプラン実施記録表により毎日の介護計画実施状況を確認し、変更が必要な利用者の見直しを適切に行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からの主治医を継続している利用者が多い。通院の際、家族が同行したり、職員が付き添っている。家族が付き添う場合は利用者の日頃の状況と医師への伝言事項等を記入した受診記録表を持参してもらい、職員が同行の場合は、受診結果を家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に重度化した場合の対応や看取りに関する事業所の指針を説明し、終末期の看取り等意向確認書により利用者や家族の意向を確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護については、利用者や家族から同意書を得て、職員は適切な取り扱いをしている。利用者のプライバシーについては全職員が日々の支援の中で利用者の誇りを損ねないよう勉強会を開催し対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活では、昼夜逆転しないように配慮し、事業所の一日の流れを押し付けず支援している。朝の散歩や、買い物なども利用者の希望に添って対応している。希望に沿い車椅子をできるだけ使用せず、自力歩行を介助して機能低下が進まないようにしている。一人ひとりの暮らしやすい環境整備に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時期によっては、畑で野菜を栽培し、収穫して調理する。一週間ごとに献立を立てているが、利用者がスーパーのチラシを見て食べたいという場合は、献立を変え、希望に添えるようにしている。行事の際は、利用者の希望に合わせたメニューも用意している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴チェック表により週3回は入浴するようにしている。入浴を拒否する方へは、入浴剤を利用したり、支援する職員が交代したりして、入ってもらえるように工夫している。時には併設しているデイサービスの大きい風呂に入り、温泉気分も味わってもらおう機会を設けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	食器の片付けや購入した食材の検品などを自分の役割と決めている方もおり、生活の中で出来る事は出来る限り行っていただいている。楽しみであるビーズやちぎり絵など好きな時に出来る環境を整えている。出来上がった作品も市の福祉フェスティバルに出品している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	散歩や買い物など利用者の希望に添って外出している。また受診時に職員と1対1でドライブをすることもある。4・6・11月は行楽の月とし、利用者全員で出かけることとしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠はしていない。一人で出かける方もいるが、その時は職員がさりげなく同行している。利用者が自分のペースで過ごせることを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の方へ災害時の地域ボランティアをお願いしている。第一木曜日を訓練の日と決めて、そのつど様々な想定をして行っている。マニュアルも作成し準備しているが、職員には体で覚えてもらうようにしている。訓練には運営推進委員にも参加して貰うこともある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を作成し法人の栄養士が確認している。医師の指示のある利用者については指示に添って水分や塩分、カロリー等、確認しながら支援している。水分摂取量は計量しやすいカップの使用などで把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節の花を活け、利用者の作品などを飾り、季節感のある和やかな雰囲気作りがされている。利用者は居室に居るよりも居心地のよい居間でくつろぐ人が大部分であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るい居室には自宅から大切な品や仏壇などを持ち込み、利用者の個性に合った居室となっている。掃除は自分でできる人にはしてもらっている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム「オークヒルズ」

記入担当者名 池田 久栄

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。